

—岐阜市—

建立100年目の大修復 “岐阜公園三重塔修復整備” について

1. はじめに

岐阜市の中央、金華山の麓に広がる岐阜公園内に位置する三重塔は、大正6年に大正天皇の即位を祝う記念事業として建立された。平成17年には国登録有形文化財に登録されるなど、その価値が広く認められているところであるが、建立から約100年が経過し、老朽化が著しく進んでいた。

岐阜公園来訪者のランドマークとして、また市民が誇る金華山のシンボルとして、本三重塔を後世に末永く継承するため、岐阜公園再整備事業の一環として、建立100年目の大修復を行った。

2. 岐阜公園三重塔修復整備内容

(1) 事業スケジュール

- ・平成25年度 事前調査・実施設計
- ・平成26年11月～平成27年3月 足場組立
- ・平成27年3月～平成27年9月 解体・調査
- ・平成27年9月～平成28年12月 修復・組立
- ・平成28年12月～平成29年2月 足場解体
- ・平成29年3月1日 竣工式

(2) 修復整備工事の内容とその特徴

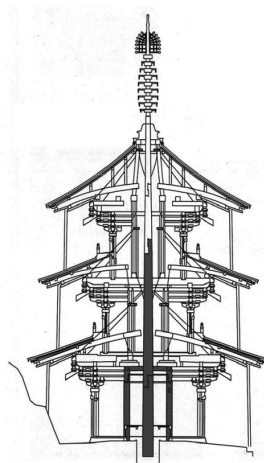
本修復整備工事では、塔中央の心柱の一部と初重四天柱を残して大部分を解体し、塔の景観を損ねていた軒の垂下を支えるための軒支柱を撤去した。また、木材の腐朽箇所、破損部等を修復したうえ、脆弱な構造部分への補強を行った。

①木橋からの転用材

建立時の三重塔に使用されていた木材が、市内中心部を流れる長良川に架けられていた旧長良橋の古材であることは、学識者の論考等により周知の事実であった。本工事における解体調査によって、軸部材から化粧材に至るまで約8割の部分にこの部材が転用されていることが確認され、転用材の経年劣化、腐朽からなる構造部材の強度不足や、径や長さ不足からなる力の伝達の不具合が明らかとなった。本来、このような部材は新材に取り替えられるべきであるが、これら転用材は本市の大正期を物語る重要な資料であり、また本塔は文化財建造物であることから、可能な限り埋木、矧木補修及び添木補強等を行い、再利用することに相当な時間と工夫を要した。

②懸垂式心柱構法

本三重塔は、中央にある心柱が、鎖で吊り下げ



解体せず残した範囲
(心柱の一部、初重四天柱：黒色)



修復を終えた三重塔

られ、礎石から浮かせた「懸垂式」と呼ばれる構法が用いられており、現存する文化財指定の三重塔では、本塔のみが採用する特徴的な構法と考えられている。

調査の結果、心柱の継手部分が著しく腐朽し、また塔の傾斜により荷重が不均衡となっていた。そこで、損傷部分の修復及び添板、金物による補強を行ったうえ、心柱の揺れにより支持部に損傷を生じさせないように、板ばねによる減衰装置を組み込んだ。

③積極的な現場公開

工事期間中、4回の市民見学会と、依頼のあった学校・企業・NPO法人など計27団体の現場見学を受け入れ、合計約1,100名が修復中の塔の様子や、職人らの伝統技能を間近に見ることができた。

また工事完成直後の平成29年3月4日に内覧会を開催したところ、約1,600人の方が建立当時の姿を取り戻した三重塔を見学した。

3. おわりに

建立から約100年を迎え、2年半にわたる修復整備が無事完了し、本三重塔は本来の優美な姿を取り戻すことができた。本市にとって重要な文化的資産であり、市民に長く親しまれてきた三重塔の価値を伝えつつ、引き続き、次の100年先を展望とした適正な維持と保存に努めていきたい。

(岐阜市 都市建設部 歴史まちづくり課 波能 麻里)